

命きらめく きみの笑顔は 宝もの
富山県医療的ケア児等
支援センターだより

創刊号 | 令和5年3月



富山県医療的ケア児等支援センター 機関紙の創刊にあたって

富山県医療的ケア児等支援センター長 本郷 和久

当センターは、医療的ケア児等が、安心して、安全な生活を営める環境作りを目的に、医療的ケア児等の保育・教育環境の充実、家族の日常生活の支援、相談支援体制の充実を目指し、富山県の委託を受け平成30年11月1日に、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター内に開所しました。

センターがこれまで行ってきた医療的ケア児等の実態調査や県内の障害児者施設訪問から、医療的ケア児等を支える家族の状況や医療・福祉・保育・教育状況には課題が多いことをあらためて実感しているところです。医療面では、小児から成人への移行に係る問題があり、保育分野では、今後、対応マニュアルを含めた保育環境の充実が求められています。福祉サービスについても、地域格差が問題となっています。

一方で、富山県では、30年前から民間主導で全国に先駆けて、「富山型デイサービス」として年齢や障害の程度を問わず支援しているという取組みが実践されており、支援が必要な障害児者も地域で支えるという意識が根付いてきたと思われます。最近では、福祉施設

や教育機関の医療的ケア児等への理解や配慮も進んできているようにも感じます。令和3年の「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」制定をうけ、医療的ケア児等にもノーマライゼーションの考え方が広まる機運にあります。

当センターでは、令和元年から医療的ケア児等コーディネーターの育成に取り組んでおり、今後、コーディネーターが、ご本人・家族と保育・教育および福祉支援とを結び付けてくれ、医療的ケア児等への相談支援体制が充実するよう期待しています。

このたよりでは、今後、福祉施設や病院、保育所・学校などのサービスを提供する側とご本人・家族間で、情報を共有することを目的に、様々な立場の方から医療的ケア児等を取り巻く医療・福祉・教育環境の充実に向けた情報を発信していく予定です。本紙を温かく育てていただければ幸いです。

ひとりで抱え込まないで！
どんなことでも、ご相談ください
いっしょに考えましょう



医療的ケア の紹介

医療的ケアは、日々の生活を営むために必要となる医療的処置であり、呼吸管理は、その代表的なケアの一つです。

重度の脳性麻痺や筋ジストロフィーをはじめとする神経筋疾患等では、舌根沈下、嚥下障害、側弯、呼吸筋の筋力低下や筋緊張亢進など様々な原因で、呼吸障害を合併することが多く、日常的に、様々な呼吸ケアが必要になる場合が少なくありません。

今回は、呼吸管理の中でも、最も一般的な呼吸ケアの一つである排痰処置について紹介します。

1. 呼吸管理 ～排痰処置～

排痰処置とは

排痰は、上気道～下気道に貯留している痰を排出することにより、楽に呼吸ができるようにすることを目的に行う処置です。誤嚥を予防する対策も同時に行うとより効果的で、インフルエンザなどの呼吸器感染症罹患時には特に大切な医療的ケアになります。

排痰処置の方法

1) 姿勢管理

息を吸ったり吐いたりしやすい姿勢をとることにより筋緊張が緩み、胸郭の動きがよくなり痰が出やすくなります。また、筋緊張が緩むことで、胃食道逆流の予防にもなります。

2) 胸を動かす・広げる

頸部から胸郭の姿勢を整えたり、肩甲骨周囲のストレッチをして、緊張を緩めます。人工呼吸器による補助換気も役に立ちます。

3) 良好な気道クリアランス（痰を出す）のためのケア

▶ 体位ドレナージ

痰がたまっている場所を上にするなど姿勢変換を行い重力によって痰を出しやすくします。



▶ スクイーピング

手で胸郭を圧迫し吸気や呼気を介助します
(患者さんの呼吸のタイミングに合わせる事がポイント)



処置は、主治医、理学療法士に相談の上行います。



次号は 2. 呼吸管理 ～排痰補助装置～ を紹介します。



事業所紹介

このコーナーでは、重症心身障害児者や医療的ケア児者への支援を行っている、県内の事業所や地域のサークルなどの取り組みを紹介していきます。

ご本人やご家族一人ひとりに、それぞれの色があるように、サービスなどを利用するなかで、より「からふる」で明るく楽しい人生になってほしい、という願いをこめました。

1回目は、令和4年にオープンした障害福祉サービス等の事業所を紹介します。

フローレンスジョジョ

● 事業内容

- 療養通所介護
- 放課後等デイサービス
- 児童発達支援

● 住所

富山市藤木1542-1

● 電話

076-481-6153

● スタッフ

看護師、介護福祉士 ほか

● 開所

平成30年4月、
令和4年5月拡充



児童の成長とともに家族に重い負担となっている、重症心身障がいや医療的ケアの必要なお子さんの入浴介助をするために、平成30年に療養通所介護、放課後等デイサービスを立ちあげました。放課後等デイサービスでの入浴は画期的なことであったようで、遠方の方も利用されています。利用児の成長で部屋が狭くなり、令和4年5月に18床に拡充して新たにオープンしました。

これからやりたいこと

* 親子でデイ事業(仮称)

お子さんがデイ利用中に、お母さんは個室のベッドで休んで体の休息またはランチタイムやコーヒータイトで心の休息をする。

* 医療的ケア児の保育ママ事業(仮称)

医療的ケア児が保育園に入所できるまで、お母さんが最も不安な時を保育ママ事業として支える。

実現するには「職員配置」という高い壁があります。「この壁がなくなれば叶うのに」と思っています。

ジョジョ 管理者 柴田恵子

つくしの家となみ

● 事業内容

- 放課後等デイサービス
- 生活介護

● 住所

砺波市庄川町青島645

● 電話

0763-23-4265

● スタッフ

看護師、介護福祉士 ほか

● 開所

令和4年11月



2年程前から、重症心身障害児や医療的ケア児の通えるデイサービス事業所を砺波地域に開所してほしいとの要望が、砺波市や南砺市の利用ご家族、行政等から寄せられ、準備を進めてきました。そして令和4年11月1日に開所することができました。

医療的ケア児の通える場所を作る為の課題は、ゆったりとくつろぐことのできる環境と、なんと言っても利用者・医療的ケア児を温かく見てくれる看護師、介護福祉士等の確保でした。

環境としては、散居の屋敷林に囲まれた砺波市庄川町青島の大きく素敵な古民家を、砺波市空き家バンクの協力も得て見つけることができました。職員は、経験豊富な看護師、介護福祉士が集まってきています。

重症心身障害児や医療的ケア児を中心にしながらも様々な障害を持つ方も触れ合える場所として、利用者・地域の方々・ボランティア等の皆様と共に笑顔溢れる「つくしの家となみ」に育てていきたいと思っています。是非とも時間を作ってお立ち寄りください。

利用者・職員一同、心よりお待ちしております。

つくしグループ 代表 与島秀則

障害福祉サービス等の利用を希望する場合のご相談は、お住まいの市町村障害福祉担当課へ



どんなことをしているの?

- 相談支援
医療的ケアを必要とする方やそのご家族、支援者や関係機関等からの相談への支援
- 人材育成
支援者や関係機関等の人材育成のための研修
- 情報提供・普及啓発
医療的ケア児等の支援に関する情報発信 など

どんな人が対応してくれるの?

専門の相談員（医療的ケア児等コーディネーター）が担当
経験豊富な看護師やケースワーカーも協力して相談等に対応します



どんな相談を受けているの?

ご家族から

「障害福祉サービスにはどのようなものがある、サービスを受けるにはどうすればいいの?」
「とにかく毎日生活しているだけで手いっぱい、何をどこに相談すればいいのかもわからない。」など

支援者から

「医療的ケア児を保育所で受け入れてほしいと相談があったが、何を準備すればいいのかわからない。」
「医療的ケア児を事業所で受入れる時に活用できる補助や制度を知りたい。」など

相談するには

どなたでも相談できます。相談は**無料**です。

まず、お電話ください!

☎ 076-438-2233 (内線230)

☎ 080-6352-4503

問い合わせフォームからも相談を受付けます（日時、場所の希望等）
センターのホームページをご覧ください。

月曜日～金曜日 9時～16時
(祝日年末年始を除く)
〒931-8517 富山市下飯野36番地
富山県リハビリテーション病院・
こども支援センター内



センターのキャッチコピーの紹介

『命きらめく きみの笑顔は 宝もの』

56点の応募のなかから選ばれました。

作者の思い

● 子の笑顔はおひさまのように何にも勝る。
生きてくれてありがとう。
医療的ケア児の家族が子を愛おしく思う、
幸福な瞬間をあらわしたかった。

センターの愛称募集

みなさんに愛される「名前」をお待ちしています!
名前に込められた思いも聞かせてください。

募集期間 令和5年3月～5月末日

応募方法 下記URLまたはQRコードを読み取り、
ご応募ください。
センターのホームページ
でも案内しています。

発表 センターだより、
ホームページにて



<https://forms.gle/aP2BaG4FyMYMFgE48>

編集後記

何者にも代えられないあなたの周りに大きな輪ができることを願い、センターは人と人をつなぎ力を合わせて、あなたとご家族、地域のお役に立てるよう努力していきます。どうぞよろしくお祈いします。